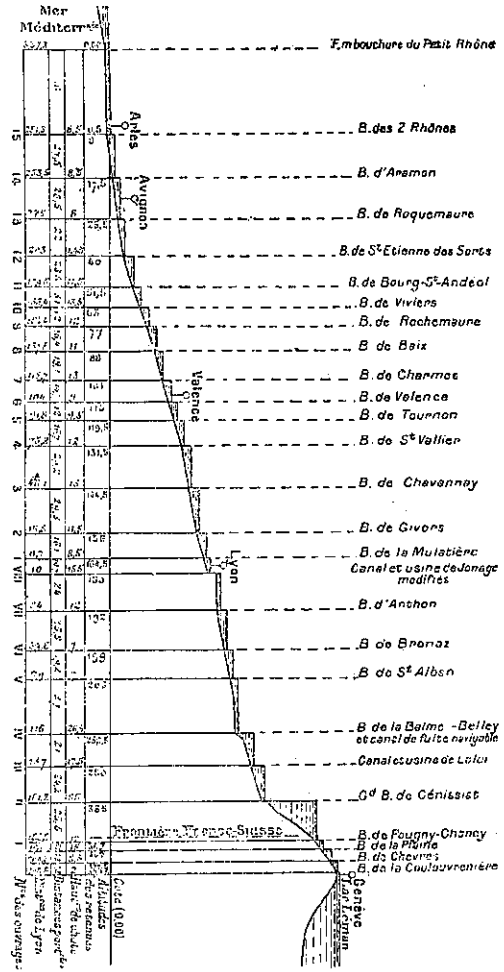


第五圖



まーる氏案縦断圖

ル場合ニハ約六〇〇法平均水量ニ於テハ九四〇法濁水量ニ於テハ一、七二三法トナリ各單價ハ戰前ノ相場ヲ標準トセルモノナルモ發電航路、送電其他凡テノ設備ヲ包含スルモノナルヲ以テ經濟上極メテ有利ナルモノナルヲ知ル而シテリよ
 下流ニ對シテハ約八億法ニシテ出力一さろわつと時ニ割當ツレハ發電所ノ全能力ヲ發揮スル場合ニ五八三法平均水量ニ對シテ六一〇法濁水量ニ於テハ一、三二五法ナリ (完)

鹽化淨水法

(Engineering world Feb. 1, 1919.)

鹽化法ニヨルばかりやノ清淨法ハ昔ヨリ發達シ此ノ方法ノ最初ノ報告ハ Royal Commission on Sewage Disposal Appendix IX 第五號ニ掲載ノモノヲアル即チ Dr. A. D. Houston, Director of Water Examination of Metropolitan
 參考資料 鹽化淨水法

Water Board of London カ千九百五年英國 Lincoln 水道ノ事ヲ説明シ Sodium hypochlorite 法カ充分ナル効果ヲ得タルコトヲ報告シテ居ル英國ニ於ケル大企模ノ鹽化淨水法ハ千九百八年 Chicago Union stock yardノ Bubbly Creek Water Filtration ニ於テ採用セルヲ初メトス此ハ Calcium hypochlorite ヲ用ヒ之亦良好ナル結果ヲ得タ最近短時日ノ間ニ水道技術者及水道計畫者ニ多大ノ効果ヲ與ヘタルカ尙ホ East Jersey 會社ノ Jersey 市ニ於ケル新計畫ニヨリ一層多大ナル効果ヲ得タ

鹽化鹽類ヲ使用セル時ハ鹽類カ水ニ作用シテ不溶解ノ物質ヲ生シ沈澱凝固シ量水器其他一定水頭ヲ要スル開口等ヲ閉塞スル不便アリ然モ此等不便ヲ除去スル爲メ或ル溶液ヲ混入スルコトモ又他ニ除去スル法モ困難ナリ鹽化かるしうじ又ハ他ノ鹽化鹽類カ純粹ナル状態ニテ使用サレシ時代ニ於テハ度々失敗セシカ故ニ今日ニテハ鹽素ヲ液化セシモノヲ使用スル液體鹽素ハ食鹽溶液ノ電氣分解ニヨリ工業的ニ製造サレ電池ヨリ蒸發スル乾燥シタル鹽素瓦斯ヲ約百封度ノ壓力ヲ以テ鐵製圓筒ニ壓入シテ液化ス液體鹽素ハ水道用トシテハ相當ノ設備ナクシテハ市場ノモノヲ直チニ使用ヘルコトヲ得サルモノナリ此ノ發見ハ千九百十年米國陸軍々醫 C. R. Danall 氏カ Virginia 州とめーやあノ水道ニ鹽素瓦斯ヲ使用スル際試験的ニ設備セルモノニヨリ偶然發見シ夫ヨリ發達セリ尙ホ New York 市 Wallace & Tiernan 會社ノ C. F. Wallace 及 M. F. Tiernan 氏等ノ努力モ之ノ設備方法ニ大ナル影響ヲ與ヘシモノナリ次ニ簡單ニ之ヲ説明セン

鹽化器ノ機能ハ鹽素瓦斯ノ流出ヲ加減シ必要ナル個所ニ使用スルモノニシテ圓筒ノ壓力ヲ緩和シ液體ヲ瓦斯ニ變化セシメ圓筒ヨリ流出スル瓦斯ヲ適宜加減シテ適度ノ殺菌能力ヲ上下水ニ供給スルモノナリ此ノ裝置ニ二種アリ一ツハ鹽素瓦斯ヲ直接供給スルモノ他ハ小量ノ水ニ鹽素瓦斯ヲ溶解シテ溶解液ヲ管ニヨリ供給スル法ナリ第一法ハ直接又ハ乾燥供給法ト名ツケ第二法ハ液體又ハ濕潤供給法ト名ツク二法共人爲的、半自動的及自動的ノ法ニヨリ供給ス人爲的裝置ハ全ク人手ニヨリ必要量ツ、供給シ半自動的裝置ハ水流ニ從ヒ供給口ヲ開閉スル外前ト同様ナリ自動的ノモノハ水流ニ從ヒ供給口ノ開閉及供給ノ加減ヲ自動的ニスルモノナリ

生水ハ一度濾過又ハ淨清シタル水ヨリモ淨化ニ餘分ノ鹽素ヲ要ス沈澱藥ヲ使用スル場合ニハ鹽素ヲ使用シテ之ヲ節約スルニ用ヒラレ又濾過水ニ鹽素ヲ使用スル場合ハ寧ロ濾過前ニ使用スルヲ得策トス鹽素ハ鹽化法ノ不純ヲ避クル爲メ出來得ル限り入口近クニ於テ注入スルモノトス鹽素ノ取扱ハ常ニ少クモ攝氏五十度以上ヲ保タシムル如キ裝置ヲ要ス鹽素ノ要量ハ淨清スヘキ水ノ成分及性質ニヨリ定マルモノニシテ普通濾過水ナラハ水一〇、〇〇〇ニ對シ鹽素〇・二二乃至〇・四〇地上水ナラハ〇・三〇乃至一・〇〇ヲ要ス(一萬分ノ一ハ水一萬がろんニ對シ鹽素八十三封度ニ相當ス)冬期 *Quandu*ニ於テ水面寒冷ナル故溫暖ノ時ヨリモ多量ニ要スト云フばくてりや試驗ニヨレハ上記ノ數量ヨリ多量ニハ必要ナキコトヲ證明セリ而シテ現今使用サルル鹽化器ハ約二千臺ニシテ一晝夜ニ淨化スル水量ハ三億がろん以上ニ達ス (完)